



校長 前田 倍成

【感染の現状】

- ◇ 感染力が強く，再感染リスク増加の可能性がある変異株（オミクロン株等）の感染が，全国各地で急激に拡大しています。
- ◇ 本県での感染状況は，現在のところステージ1「感染要注意」ですが，19日（水）には，1日の新規感染者として過去最多となる176人が報告されました。
- ◇ 若年層の感染が割合として高い傾向にあり，全国各地，県内でも児童生徒の感染，学校でのクラスター発生が相次いでいる状況に懸念が広がっています。

【学校での取組の継続と徹底】

- ◇ 私ども教職員自身が感染対策行動を徹底する
- ◇ これまで同様，基本的な感染対策（身体的距離，マスク着用，手洗い・消毒，換気等）をはじめとした「新しい生活様式」を徹底する
- ◇ 感染症対策を十分に考慮し工夫した学習活動の実施
例：グループ学習の形態や時間の工夫，対面教室使用の見合わせ
調理実習，器楽演奏・合唱，身体が過度に接触する運動等の見合わせ
活動前後の手洗い・消毒 など
- ◇ 今後の感染状況によっては，学校行事等の見直しや中止を想定する

【保護者のみなさまへのお願い】

以上のような状況のもと，児童の感染を防ぎ，安心・安全な教育活動を推進するためにも，以下の項目を含めた感染症対策の徹底にご家庭のご協力を改めてお願いいたします。

- ◇ 毎日の健康チェックを忘れず，お子様に発熱等の症状がある場合には，登校や外出を控えさせ自宅で休養するようにしていただくこと
- ◇ 不要不急の外出を控える，混雑している場所や時間を避けるなど，「新しい生活様式」の継続実践とともに，「感染リスクが高まる『5つの場面』」（裏面掲載）等を参考に，感染リスクを減らす慎重な判断，行動をしていただくこと
- ◇ 万一，PCR受検をする，感染あるいは濃厚接触者となった場合は，速やかに学校へご連絡ください。

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - 会話をしている際は、可能な限り真正面を避ける。
 - 外出時や屋内でも会話をすると、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、**意識は、熱中症に十分注意する。**
 - 家に帰ったらまず**手や顔を洗う。**
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う**（手指消毒剤の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒**、□咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） □身体的距離の確保
- 「**3密**」の回避（**密集、密接、密閉**）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ませ
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお箸の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4)働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 □時差通勤でゆったりと □オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン □対面での打合せは換気とマスク

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、巨力ラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まる可能性がある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

